

演習問題 施工2

「得点できたかどうか」「○か×か」ではなく、問題文を読んだ時に、「その関連の知識が、頭の中にどう収納されているのか、フォーカスポイントはどこか」を簡単に余白に描き出してみてください

ウラ模試 1

[No.11] コンクリート工事におけるコンクリート打設時の品質管理に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 品質基準強度が 36N/mm^2 を超える初期凍害のおそれのある寒中コンクリートにおいては、AE 剤、AE 減水剤又は高性能 AE 減水剤を使用し、空気量を 3%とした。
2. マスコンクリートにおいて、荷卸し時のコンクリート温度の上限値については、特記がなかったので、 40°C とした。
3. 加熱した練混ぜ水を使用する寒中コンクリートの練混ぜにおいて、セメントを投入する直前のミキサー内の骨材及び水の温度の上限値については、特記がなかったので、 40°C とした。
4. 仕上げなしのコンクリートの中性化は、炭酸ガス濃度の影響を受けることから、一般に、屋外より屋内のほうが早く進行する。

ウラ模試 1

[No.22] 鉄筋コンクリート造の既存建築物の耐震改修工事等に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. モルタル外壁の塗装表面に付着したエフロレッセンスについては、表面に析出した白色物質を、ワイヤーブラシで削り、水洗いによって完全に除去した。
2. 床仕上げ下地のセルフレベリング材による補修については、吸水調整材が十分に乾燥した後、セルフレベリング材が硬化するまで、できる限り通風がない状態で流し込みを行った。
3. 現場打ち鉄筋コンクリート造の耐震壁の増設工事において、グラウト材の品質管理として行う圧縮強度試験の供試体の材齢については、7 日及び 28 日とした。
4. 現場打ち鉄筋コンクリート造の耐震壁の増設工事において、増設壁の鉄筋の既存柱への定着については、既存柱を研って露出させた柱主筋に、増設壁の鉄筋の端部を 135 度に折り曲げたフックをかけた。

ウラ模試 2

[No.8] 鉄筋工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. T形梁のあばら筋をU字形とする場合、上部のキャップタイの末端部は90° 曲げとし、余長を6dとした。
2. 先端にコンクリート手すりが乗る片持ちスラブ上端筋の先端は、90° 曲げとし、余長を4dとした。
3. 設計図書に特記がない場合、大梁に90° フック付き定着とする小梁の主筋（上端筋）については、大梁のせいが小さく、そのフック部を鉛直下向きに配筋すると定着長さが確保できないので、斜め定着とした。
4. 設計図書に特記がない場合、柱頭及び柱脚におけるスパイラル筋の末端の定着については、フック付きとし、その末端の定着を1.5 巻き以上の添え巻きとした。

ウラ模試 2

[No.14] 鉄骨工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. F8T 相当の M20 の溶融亜鉛めっき高力ボルトの孔径については、F10T の M20 の高力ボルトの最高孔径と同じ大きさとした。
2. 呼び径が M22 のトルシア形高力ボルトは、締め付け長さが 40mm であったので、ボルトの長さ（首下長さ）が 75mm のものを使用した。
3. 高力ボルトの本締めは、電動レンチを使用しなければ降雨時に行うことができる。
4. 架構の倒壊防止用ワイヤロープを使用する場合、これを建入れ直し用に兼用してもよい。